

コウモリ目 ヒナコウモリ科

ホンドノレンコウモリ



2005年, 六戸町, 向山満

青森県：A 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

前腕長 40mm 前後、体重 7g 前後の小型種で、暗褐色の体毛で被われている。腿間膜の後縁に細毛を列生する。大きな耳介と、細長く尖った耳珠を持つことが特徴である。

分布等の概要

六戸町熊野神社奥の院に毎年 100 頭くらいの雌が集まって出産保育繁殖集団を形成する。1産1子である。雄や越冬場所に関する生態的知見は得られていない。ラジオテレメトリー調査によると繁殖場所からの移動距離は約 1.3km ~ 5.0km で、利用環境は樹林や林縁部を好み、畑や水田上などの開けた空間でないことが分かった。

(向山満)

コウモリ目 ヒナコウモリ科

コヤマコウモリ



2001年, 鱒ヶ沢町, 向山満

青森県：A 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

前腕長 50mm 前後、体重 20g 前後で暗褐色で長い体毛が密生している。

分布等の概要

全国的にも希少種で県外の記録は岩手県・福島県・長野県の3県しかない。県内の既知産地はいずれも良好なブナ林であることから典型的な森林性コウモリと思われるが、越冬や採餌・繁殖に関する生態的知見はない。

(向山満)

モグラ目 トガリネズミ科

カワネズミ



2003年, 白神山地, 小原良孝

青森県：LP (津軽山地) 環境省：該当なし

形態的特徴

頭胴長 10~13cm、尾長 10cm 前後のトガリネズミ亜科食虫類で、手足の指の両側に生えている水かきに適した剛毛の列、耳栓の働きをする対珠など、水中生活に適した諸特徴をもつ。

分布等の概要

カワネズミは本州と九州にのみ分布する日本固有種で、主に山地溪流沿いに生息している。西日本では絶滅を危惧する県が多く、東日本では普通種とする県が多い。県内では 1930 年代頃までは平野部の小川にも生息していた記録があるが、現在は山地溪流に限られ、平野部の河川での生息の可能性はほとんどない。

(小原良孝)

サル目 オナガザル科

ホンドザル（下北半島）



2009年,むつ市,磯山隆幸

青森県：LP（下北半島） 環境省：該当なし 形態的特徴

頭胴長は雄 53～60cm、雌 47～55cm で雄の方がやや大きい。尾は数 cm 程度で短い。体毛は茶褐色ないし灰褐色で、腹部と前肢・後肢の内側はやや白く、顔と尻部は裸出して赤い。

分布等の概要

下北半島のホンドザルの生息域はもともと半島西部に限られていたが、個体数が増加するにつれ次第に東進する傾向にあり、むつ市近辺にまで出没するようになっている。

(小原良孝)

ネコ目 イタチ科

ニホンイイズナ



1988年,弘前市,向山満

青森県：LP（南部地方） 環境省：LP（本州） 形態的特徴

頭胴長は雄で 18cm 前後、雌で 15cm 前後。短足胴長のスマートな体型で、オコジョによく似ているが、尾が短く、オコジョにみられる尾端の黒毛がないので容易に区別される。夏期には背面茶褐色、腹面白色の体毛をもち、冬になると換毛し全身純白となる。

分布等の概要

ニホンイイズナはユーラシア及び北アメリカ北部に広く分布するイイズナ (*M. nivalis*) の日本固有亜種でその主な生息域は北海道と北東北とされている。

(小原良孝)

鳥類

コウノトリ目 サギ科

サンカノゴイ



2008年,仏沼,宮彰男

青森県：A 環境省：絶滅危惧 B類 形態的特徴

全長約 70cm。全身が黄褐色で、黒褐色の様々な形の斑がある。頭頂部と顎線は黒褐色。胸部に暗褐色の縦斑がある。くちばしと足は黄緑色で目は黄色。

分布等の概要

北アフリカ・ヨーロッパ・アジア南部に広く分布する。国内には冬鳥として草湿原・湖沼・河畔などに渡来するが、北海道と本州の一部では少数繁殖している。本州では秋冬にまれに観察され、本県では三沢市仏沼干拓地で生息が確認されている。

(阿部誠一)

タカ目 タカ科

クマタカ



2006年,西目屋村,小山信行

青森県：A 環境省：絶滅危惧 B類 形態的特徴

全長雄 72cm、雌 80cm、翼開長 140～165cm、トビよりやや大きいタカである。後頭の角張る冠羽が特徴である。飛翔時の翼は幅広く、先端は指状に開き後縁はふくらみがある。のどから体の下面は白色で胸に縦斑、腹に横斑、翼の下面と尾には明瞭な横斑がある。

分布等の概要

亜種クマタカは日本にだけ生息する日本固有亜種。世界で一番北に生息する亜種である。日本全国の山林に留鳥として生息している。大樹に営巣し産卵は1個である。県内では下北半島・津軽半島・八甲田山系等に広く分布しているが白神山地及びその周囲山域に生息数が多い。

(小山信行)

タカ目 タカ科

イヌワシ



2000年,深浦町,小山信行

青森県：A 環境省：絶滅危惧 B類 形態的特徴

全長雄 81cm、雌 89cm、翼開長 170～213cm、トビより大きい。成鳥は全体が黒褐色で後頸部が金褐色。若鳥は両翼の下面に三角形の白斑があり、尾の基部が白色。若鳥の翼と尾の白斑は年齢により変化する。くちばしは先が黒色、基部は黄色。足も黄色である。

分布等の概要

亜種イヌワシは留鳥で日本と朝鮮で繁殖。日本では北海道から九州の限られた山岳でまれに繁殖。県内では白神山地2か所で営巣、約10羽生息し、一部が岩木山山麓に飛来する。八甲田山系にもごく少数が生息している。

(小山信行)

キジ目 キジ科

ウズラ



2008年,おいらせ町,宮彰男

青森県：A 環境省：準絶滅危惧 形態的特徴

全長 20cm、翼開長 30cm。体は丸く尾は短い。頭、体の上面は褐色で黒と淡黄色の横斑、縦斑があり、白色の縦斑が目立つ。雄の夏羽は顔からのどが赤褐色で、雌ののどは淡褐色に2本の黒帯がある。

分布等の概要

日本では本州中部以北で夏鳥が繁殖し、本州中部以南で越冬する。低地から山地の草原、農地周辺の草地に生息。県内では、岩木山麓の草原、上北地方の牧野などに多く見られていたが、近年はいちじるしく出現頻度も少なくなった。近年では三沢市の仏沼・岩木山南山麓の出現記録がある。

(小山信行)

ツル目 クイナ科

シマクイナ



2007年, 仏沼, 宮彰男

青森県：A 環境省：絶滅危惧 B類

形態的特徴

全長 13cm 前後の小さなクイナである。頭上から体上面は褐色で、黒い縦斑とそれに交わる白い細線がある。顔、胸、脇は褐色で脚は黄褐色。嘴は暗褐色、次列風切羽は白い。

分布等の概要

繁殖地はトランスバイカリア東南部と中国東北部に局地的にある。県内では下北郡尻屋崎と東津軽郡外ヶ浜町三厩の記録がある。従来国内に数少ない冬鳥として飛来するのみと考えられていたが、2003年に仏沼国設鳥獣保護区で繁殖期に少数生息していることが確認され、繁殖地の可能性が高いと考えられる。

(宮彰男)

キツツキ目 キツツキ科

クマゲラ



1986年, 鱒ヶ沢町, 小山信行

青森県：A 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

全長 46cm、翼開長 66cm。日本最大のキツツキ。全体が黒色で、雄の頭上部は全体が赤く、雌は後頭部だけ赤い。くちばしは黄色。飛翔時、翼の先端が指を開いたように見える。

分布等の概要

日本では北海道と本州北部に留鳥として生息している。ブナ林の面積などから推定した北東北3県全体の生息可能個体数は 250～124 羽である。本県の生息地は白神山地と十和田八幡平国立公園であるが、生息数は 10～20 個体程度と考えられ、姿を見ることはまれである。

(小山信行)

スズメ目 モズ科

チゴモズ



1992年, 弘前市, 小山信行

青森県：A 環境省：絶滅危惧 A類

形態的特徴

全長 18cm、翼開長 25cm。頭が青灰色、背と尾は赤褐色で黒い横斑がある。喉と腹部は白色で、雌の腹部側面には褐色の横斑がある。くちばしは黒色、足は黒褐色で木に止まっている時、腹部の白色と黒色の過眼線が目立つ。眉斑はない。

分布等の概要

日本では夏鳥として本州中部以北に渡来、平地から低山帯の林に生息。全国的に生息が局地的で、個体数が少ない。県内では低山帯から市街地の小さな林にまれに生息し、かつて弘前市の公園や寺社の林で毎年繁殖していたが、近年出現がない。

(小山信行)

スズメ目 ウグイス科

オオセッカ



2007年, 仏沼, 宮彰男

青森県：A 環境省：絶滅危惧 B類

形態的特徴

全長 13cm。スズメ大で目立たない鳥。体の上面は褐色で背に黒い縦斑がある。のどから腹部は白色で、脇は淡褐色をしている。尾は中央が長く、外側が次第に短いくさび形。

分布等の概要

亜種オオセッカは日本の本州北部と中部で繁殖し、冬期は本州の温暖な地方で越冬する。日本全国の生息個体数は 2001 年現在で約 2,500 羽と推定されている。個体数が多い繁殖地は本県の仏沼、岩木川下流域、茨城県・千葉県利根川下流域である。県内の生息地・繁殖地は草丈が 2m 弱のヨシが疎生する、下草もあってやや貧弱なヨシ原である。

(小山信行)

タカ目 タカ科

オオワシ



2002年, つがる市(旧車力村), 小山信行

青森県：B 環境省：絶滅危惧 類

形態的特徴

全長雄 88cm、雌 102cm、翼開長 220～245cm。日本最大の海ワシ。翼は長く幅広く、尾は長目のくさび形。黄色で大きなくちばし、足も黄色。成鳥は肩部分と尾が白色、若鳥は肩・尾の白がはっきりしない。若鳥は成長するにつれて肩・尾が白くなる。

分布等の概要

日本には冬鳥として日本全国に渡来、海岸や大きな湖沼・河川に出現するが個体数は少ない。県内では小川原湖・十三湖などの結氷した広い湖面に 1羽、2羽と少数個体が分散して休息する。

(小山信行)

タカ目 タカ科

ハイタカ



2000年, 弘前市, 小山信行

青森県：B 環境省：準絶滅危惧

形態的特徴

全長雄 32cm、雌 39cm、翼開長 61～79cm。雄はハト大、雌は雄より大きい。カラスより小さい小形のタカである。飛翔時は下面が白色で褐色の横斑があり、翼は幅広く先が丸みをおび、尾は長目で太い横縞が 4本ある。

分布等の概要

日本では本州以北で繁殖し留鳥、秋期、冬期は日本全体に分散生息する。県内では各地の低山帯、人里に周年見られるが数は少ない。県南地方より津軽地方の生息密度が高い。夏期は農耕地付近の林に生息するものが多いが、冬期は河川敷の茂みや市街地の公園にも出現し、シジュウカラやスズメの群を追うのをよく見かける。

(小山信行)